

第五十九回
帝國議會
貴族院

關稅定率法中改正法律案特別委員會會議事速記錄第二號

昭和六年三月二十三日(月曜日)午前十一時三十九分開會

○委員長(東郷安君) 是ヨリ開會イタシマス、昨日ニ引續キマシテ木材及人絹、兩案

ニ關スル御質問ヲ願ヒタイト存ジマス

○子爵綾小路護君 人絹ノ保稅工場ニ關シ

マシテ弊害トシテ一般ニ論ゼラレテ居ル所

ガアリマス、殊ニ當業者ニ於キマシテハ之

ニ對シテノ陳情ガゴザイマスヤウデアリマ

スルガ、政府ニ於カレマシテハ保稅工場ノ

目下弊害トシテ世間デ云ハレテ居ルヤウナ

コトニ關シマシテノ御意見ハ如何デアリマ

スカ、其點ヲ御説明ヲ願ヒタイト存ジマス

○政府委員(小川郷太郎君) 人絹ノ保稅工

場ヲ無限ニ許スト云フト、今マデ内地ノ人

絹ヲ使ッテ人絹織物ヲ拵ヘテ居、タ者ガ外國

テ保稅工場ガ多クナレバナル程内地ノ人絹

ヲ使ッテ居ル織物業者ヲ多少脅カスト云フ

ヤウナコトガ起ッテ來ルノデアリマス、ソレ

ガ第二點デアリマス、ソレデアリマスカラ

シテ、保稅工場ヲ無制限ニ許シテ置キマス

レバ、内地ノ人絹業ト、内地ノ人絹ヲ使ッテ

居リマス、織物業者、兩方ニ容易ナラヌ影

響ヲ及ボスコトガアル、斯ウ云フコトハ日

本ノ產業ノ上カラ相當考慮シナケレバナラ

ヌノデアリマス、併シ又一方是ハ御尋デナ

イカモ知レマセヌガ、政府ノ申上ゲテ居リ

マスヤウニ保稅工場ト云フ制度ガアリマス

以上ハ是モ全然無視スルコトハ出來ナイ、

斯ウ云フヤウナ考デ昨日カラ御答ヲシテ居

場ハ大正十二年以來之ヲ特許シテ來テ居リ

マスガ、今日實ハ六ツ程シカアリマセヌ、

尙ホ特許ヲ請求シテ來ル者ガ續々ト參リマ

ス、ソレハ今日ニ於キマシテモ政府ハ今申

シマシタヤウナ事情ニ鑑ミマシテ無暗ニ何

デモカンデモ許スト云フヤウナコトハ致シ

テ居リマセヌ、ソレデ昨日モ當委員會デ御

話イタシマシタヤウニ今後ニ於キマシテ

モ、人絹保稅工場ヲ新設シヤウトカ又ハ擴

張シヤウトカ云フ願ヒガ出テ來マスレバ、

ソレニ對シテハ極メテ慎重ナル態度ヲ以テ

善處シヤウ、サウ云フ風ニ考ヘテ居リマス

○子爵綾小路護君 日本全國デ人絹ノ機業

工場ガ、保稅工場ヲ利用イタシテ居ルノト、

マス、アトハ澤山アリマスカラ……人絹織

物業ニ從事シテ居ル者モ相當アリマス

○子爵綾小路護君 大體ノ數ハ御分リデセ

ウカ

○政府委員(小川郷太郎君) 人絹織物ニ從

事シテ居ル工場デスネ、福井地方、石川地

方ニ隨分小サイ織物業者モアリマスカラ、

チョット數字ヲ此處デ申上兼ネマスガ、相當

ニ多クアリマス

○西野元君 過日御話ガ出マシタヤウデア

リマスガ、衆議院ノ本會議ノ決議デアリマ

スカ、委員會ノ決議ニ上ツタモノカ知レマセ

ヌガ、附帶決議ト云フヤウナモノガ新聞ニ

出テ居リマスガ、ソレニ述ベテ居リマス趣

旨ニ對シテハ政府ニ於キマシテハ、ドウ云

フ風ニ御考ヘニナツタノデアリマスガ、或ハ

斯ノ如キ希望ニ副フト云フヤウナ御話ヲ承

ハッテ衆議院ガソレニ基イテ決議ヲ致シテ

居ルヤウナ事情デアリマセウカ、其邊研究

シテ居リマス暇ガゴザイマセヌノデ、此場

合同ハレレバ幸ト存ジマス

○政府委員(小川郷太郎君) 昨日モチョッ

ト御話申シマシタ衆議院ノ關稅定率法中改

正法律案ノ委員會ニ於キマシテ附帶決議ガ

ア、タノデアリマス、其附帶決議ハモウ此處
デ再ビ繰返シテ申上ゲナクテモ宜シウゴザ
イマセウガ、畢竟人絹織物業ニ對スル保稅
工場ノ新設又ハ擴張ノ特許ヲ與ヘザルハ勿
論、是ガ取締ヲ嚴重ニセヨト云フヤウナ意
味ノ附帶決議デアリマス、其附帶決議ニ對
シマシテ政府ハ其附帶決議其モノハ委員會
ノ意思表示デアルト考ヘマシテ、別ニ此附
帶決議ニ對シテ質問應答トカ云フモノハ無
カ、タノデアリマス、併シ政府ノ態度ト致シ
マシテハ本會議ニ於キマシテ只今申述ベタ
ヤウナ趣旨、昨日此委員會ニ於テ述ベマシ
タヤウナ趣旨ヲ述ベテ居ルノデアリマス

○委員長(男爵東郷安君) 高廣君ニ伺ヒマ
スガ、アナタノ御質問ハ今ノ保稅倉庫ノ問
題ニ關聯シテ居リマスカ

○高廣次平君 ハイ、尙ホソレニ附帶イタ
シマシテ保稅工場ニ關シテ最近御改正ニナ
ル御意思ガアリマスカ

○政府委員(小川郷太郎君) 保稅工場ニ關
スル改正ノ意思アリヤト云フ御質問ハ此方
針ニ付テノコトデアリマスカ

○高廣次平君 ハイ

○政府委員(小川郷太郎君) 方針ハ前申シ
マシタヤウナ風ニ此保稅工場ニ關スル法律
モアリマスシ、片方ニハ關稅定率法ガアリ、

更ニ此人絹製造業、人絹織物業ト云フヤウ
ナモノノ發達ノコトモ茲ニ考慮シナケレバ
ナリマセヌカラシテ、人絹織物業工場ノ新設
擴張ニ付テハ慎重ナル態度ヲ以テ之ニ善處
シタイ、斯ウ云フ方針ヲ持ッテ居ル譯デアリ
マシテ、此方針ヲ別ニ改メヤウト云フノデ
ハアリマセヌデ、是デ進ンデ行キタイト考
ヘテ居ル次第デアリマス

○委員長(男爵東郷安君) 保稅倉庫ノ問題
ガ出マシタカラ、私カラモ保稅倉庫ニ關ス
ル點デ御質問イタシタイト思ヒマス、只今
諸君ノ御手許ニ御廻シ申上ゲテ置キマシタ
條文ヲ參考ノ爲ニ御覽ヲ願ヒタイト思ヒマ
ス、衆議院ノ希望決議ニ關スル點、即チ將
來保稅倉庫ノ新設擴張ハ勿論、是ガ取締ヲ
嚴重ニスベシト云フ希望決議ハ會テ日本ガ
參加イタシマシタ「ジュネーブ」ノ國際經濟
會議ノ取極ト、即チ昨年ノ七月十一日ニ外
務省カラ公示ニナリマシタ輸入及輸出ノ禁
止及制限ノ撤廢ノ爲ノ條約、及ビ是ガ補足協
定竝ニ最終議定書、此全體ノ趣旨ニ違反スル
コトナキヤト云フ斯ウ云フ問題デアリマス、

事國際貿易ノコトニ關スルノデアリマスカ
ラ、單ニ只今國內デ人絹ノ當面ノ問題ヲ論
議スルバカリデナク、此事ハ對手國ノアル
コトデ、從テ此機會ニ於キマシテ日本ガ現

ニ締結シテ居ル是等ノ條約書ノ趣旨ニ若シ
反スルモノデアルトスルナラバ、折角當業
者ガ希望シテ居リマシテモ、是ハ遺憾ナガ
ラ政府ニ於テ實行スルコトノ出來ナイ結果
ニ陷ル、又我々立法府ト致シマシテ、左様
ナ嫌ヒノアル、疑義ノアルモノヲ默テ通過
サセルコトハ考ヘモノデアルト云フノデ、
茲ニ諸君ノ前ニ私ノ疑義トスル所ヲ一應申
述ベテ見タイト思フノデアリマス、ソレデ

此事ハ本會議デモ申述ベマシタケレドモ、
恐ラク此處ニ御列席ノ委員ノ諸君ハ其當時
御出席ナカタト思ヒマスカラ、甚ダ重複
デアリマスケレドモ、簡單ニ趣旨ヲ申述ベ
テ置キタイト思フノデアリマス、ソレハ只
今御手許ニ差出シマシタ書類ノ第三條ヲ御
覽願ヒタイト思フノデアリマス、其前ニモ
ウ一ツ附ケ加ヘテ申上ゲマスガ、此條約ハ
歐羅巴大戰後各國ガ其國ノ經濟狀況、產
業狀態ノ發達ニ鑑ミテ、非常ニ關稅障壁ヲ
高クシテ、サウシテ通商ノ自由ガ非常ニ束
縛サレタ、ソレデハナラナイカラ、各國ガ
申合セテ出來ルダケ通商自由ノ主義ニ基イ
テ、關稅障壁ノ撤廢若クハ輸入輸出ノ制限
禁止等ニ屬スルモノハ出來ルダケ話シ合
テ自由ニシタイ、斯ウ云フ趣意ナンデアリ
マス、ソコデ第三條ヲ御讀ミ願ヒタイト思

ヒマスガ「締約國ガ自國ノ法令ニ從ヒ貨物ノ
輸入又ハ輸出ヲ、輸入若ハ輸出ノ方法形式
若ハ場所又ハ記號ノ押捺ニ關スル或規則又
ハ他ノ手續若ハ條件ニ從ハシムル場合ニ於
テハ締約國ハ之ヲ以テ變裝セル禁止又ハ專
斷ナル制限ノ手段ヲラシメサルコトヲ約ス」
斯ウ云フ一ツノ原則ガ出デ居リマス、其前
ニモウ一ツ選ッテ第一條ヲ御覽ヲ願ヒタイ
ト思ヒマス、第一條ニハ本條約ノ精神ガ諱ッ
テアルノデアリマス、第八條「本條約ノ規定
ハ締約國ノ領域ノ生産物又ハ製造品タル貨
物ノ他ノ締約國ノ領域ヘノ輸入ニ對シ課セ
ラルル禁止及制限竝ニ締約國ノ領域ヨリ他
ノ締約國ノ領域ヘノ貨物ノ輸出ニ課セラル
ル禁止及制限ニ適用セラルヘシ」、此處デ原
則ヲ諱ヒマシテ第三條ニ於テ稍、之ヲ明ニ
シ、更ニ第四條ニ於キマシテ「左ノ種類ノ禁
止及制限ハ該禁止及制限力同一條件ノ下ニ
在ル外國間ニ於ケル專斷ナル差別ノ手段又
ハ國際貿易上ノ變裝セル制限ト成ルカ如キ
方法ニ於テ適用セラレサル限り本條約ニ依
リ禁止セララルコトナシ」、ソレカラ、ソレ
ノ第七ヲ御覽ヲ願ヒマス、外國產物ニ之ト
同種ノ內國產物ノ製産、取引運送及消費ニ
付國內ニ於テ設定セラレタル禁止及制限ヲ
及ホスコトヲ目的トスル禁止又ハ制限」而

シテ此文字ヲ更ニ後述ノ協定議定書ニ依リマシテ、最後ノ所ヲ御覽ヲ願ヒマス、第四條第七項ニ關シテ説明的ノモノヲ補足シテ居リマス、「締約國ハ或國ノ憲法及該國カ實施スル國內ニ於ケル各種ノ取締方法ニ依リ内國產物ト輸入產物トノ間ニ於ケル完全ナル同等待遇ヲ確保スルコト能ハサルコト判明シタル場合ニ於テハ右待遇ノ相違ハ輸入產物ニ對シ不公正ナル差別ヲ設ケルノ目的又ハ結果ヲ有セシムルコトナカルヘキコトヲ宣言ス」、斯ウ云フ風ニ明ニ諱テ居リマス、果シテ是ノ精神ト、只今問題ニナッテ居リマス衆議院並ニ人絹當業者ガ希望シテ已マナイ保税倉庫ニ對スル相當ノ制限、禁止若クハ壓迫ト云々ヤウナコトガ假リニアルトスルナラバ、果シテ此精神ト矛盾スル所ナキヤ相反スル所ナキヤト云フノガ私ノ疑問ナンデアリマス、デ、私ガ讀ミマシタ所其他關係ノ條項ヲ調べテ見マス、又全體ノ此條約ノ趣意カラ見マシテ、保税倉庫ニ對シテ、少クトモ既設ノ保税倉庫ニ對シテ極端ナ、ト申シテハ少シ語弊ガアルカモ知レマセヌガ、餘リ激シイ、壓迫的、若クハ嚴重ナ取締ヲシテ、ソレノ作業ニ障害ヲ與ヘル、或ハ採算上引合ニナルヤウナコトヲ色ミノ手心ヲ以テ爲スト云フコトハドウ

シテモ此條約ノ趣意ニ反スルデヤナイカ、然ラバ他ノ方面カラ言フテモ此條約ヨリ離レテ申シマシテモ、此經濟上ノ取引ノ自由ト云フモノハサウ官憲ノ壓迫、若クハ或ル經濟上ノ特殊ノ利益ニ基イタ一方的ノ行爲ヲ以テ左右スルト云フコトハ不自然ナコト、矢張り保税倉庫ト云フモノノ制度ヲ認メテ、之ヲ外國貿易ヲ助長スル意味ナラバ此點ニ付テハ相當政府ニ於テモ御考慮ナサレナケレバナラス、私ガ讀ミマシタ衆議院ノ希望決議ト云フモノハ相當是ハ強イ意味ナシ、斯ウ云フ法案ヲ出シテ誤テ條約ノ精神ニ反スルト云フヤウナコトニナルト、甚ダ遺憾ダカラ、其點ハ政府ニ於テドウ御考慮ニナルカト云フコトニ對シテ先日本會議ニ於テ小川政務次官ヨリ縷、御返事ガアリマシタ、ソレニ依リマスル結論ニ於テ人絹ノ保税工場ヲ或ハ新設シ、或ハ擴張スルト云フコトニ付キマシテモ慎重ナル態度ヲ以テ善處セントスルモノデアアル、斯ウ云フノデアリマス、甚ダ含蓄アル御言葉デアルト思ヒマスガ、世間動モスルト之ヲ一步越エテモト更ニ嚴重ナ取締ヲシテ、場合ニ依ッテハ禁止シテ貰ヒタイ、若クハ保税倉庫法ヲ改正シテ此分ニ限ッテハ其稅關制度ト云フモノヲ廢止シテ貰ヒタイ、斯ウ云フ所マ

デ行クノガ私ハ甚ダ行き過ギタコトデハナカラウカト思フノデアリマス、此點ニ付キマシテ、丁度只今此點ニ諸君ノ御質疑ガ出マシタカラ、私カラモ政府ニ一應其御意ヲ確メテ置キタイと思ヒマス

○政府委員(小川郷太郎君) 只今委員長ノ御質問ハ保税工場ヲ新設若クハ擴張ヲ認メナイコトニナレバ、千九百二十七年十月十七日ヲ以テ「ジュネーヴ」ニ於テ作成セラレタ條約ニ違反セナイカ、斯ウ云フ御趣旨ノ御質問デアルト考ヘマス、實ハ條約ノ解釋ニ付キマシテハ或ハ外務省ノ政府委員カラ、或ハ法制局ノ政府委員カラ御答ヘスルノガ穩當ダト思ヒマスガ、便宜上私カラ御答ヲ申上ゲテ置キマス、先ヅ條約ニ違反スルカ、ドウカト云フコトヲ明ニスルニハ、此條約ノ趣旨ヲ一應考ヘテ見ル必要ガアリマス、是ハ今委員長カラ御話ニナッタヤウナコトデアリマスガ、千九百二十七年十月十七日付デ「ジュネーヴ」デ作成セラレタ「輸入及輸出ノ禁止及制限ノ撤廢ノ爲ノ國際條約」ト云フモノハ國際聯盟ノ規定ニ基イテ出來タモノデアリマシテ、通商ノ自由ヲ基準トシテ居ルモノデアリマス、此條約ハ元來千九百二十七年「ジュネーヴ」ニ於テ開催サレタ國際經濟會議ノ結論ニ誘發セラレタモノ

デアリマシテ、其會議ノ最終ノ報告ニハ根本ニ於テ次ノ如ク認メテ居リマス、「各國ニ於ケル商業ハ現在、國ニ於テ建テラレタル障壁ニ妨ゲラレ特ニ歐羅巴ニ於テハ之ガ社會一般ノ福祉ノ増進ニ大ナル障礙ヲ與ヘツツアルコトハ明デアアル」、而シテ右報告書ハ通商障害除去ノ必要ヲ左ノ四點ニ分カテ痛論シテ居ルノデアリマス、第一ハ通商ノ自由、第二ハ關稅率、第三ハ商業政策及通商條約、第四ハ自國商業及自由船舶保護ニ關スル間接手段デアリマス、而シテ輸出入ノ禁止及制限ノ問題ハ右ノ第一ノ通商ノ自由ノ項目ノ下デ論セラレテアルノデアリマシテ「經濟會議ハ國際貿易ノ完全ナル自由ノ恢復ヲ以テ世界繁榮ノ重要ナル條件ノ一」ナリトスル信條ノ下ニ國際聯盟經濟委員會ノ作成ニ係ル輸出入ノ禁止及制限ノ撤廢ノ爲ノ國際協定ヲ開クベキコトヲ勸告シテ居ルノデアリマス、本條約ハ右ノ勸告ニ基イテ出來タモノデアリマシテ、右ノ如キ締結ノ趣旨ハ條約ノ前文中ニモ明ニ出テ居ルノデアリマス、即チ條約ノ精神ハ通商ノ自由、即チ輸出入ノ禁止及制限ノ撤廢ト云フコトニアルト思フノデアリマス、所デ今問題ニナッテ居リマスノハ保税工場ノ新設若クハ擴張ガ此輸出入ノ禁止及制限ノ撤廢

ヲ期シテ居ル條約ニ違反スルカ、ドウカ、ト云フコトデアリマス、之ヲ表面ノ條約文カラ見マシテ其精神ヲ探リマス、條約ノ解釋ト致シマシテハ條約ニ違反スルモノデハナイ、ト云フベキデハナカラウカト、考ヘラレルノデアリマス、保稅工場ハ外國貿易ニ便宜ヲ與ヘル爲ニ設ケラレタ國內ノ施設デアリマス、本來制度トシテ之ヲ設ケナクテモ何モ本條約ニ違反シテ居ナイノデアリマス、果シテ然ラバ制度トシテ之ヲ設ケタ上デ、其新設若クハ擴張ヲ認メナイトカ、又ハ貨物ノ移入ヲ禁止スルトカ云フコトガアリマシテモ、何等本條約ニ違反スルモノトハ言ヘナイダラウト考ヘマス、尙ホ此保稅工場ハ一ツノ關稅制度デアリマスガ、本條約ハ締結國ノ關稅制度ニ何等影響ヲ與フルモノデナイト云フ趣旨デアルコトハ、本條約最終議定書ノ宣言ニモ明ニ書イデアリマシテ之ヲ以テ見マシテモ、保稅工場ノ新設擴張ヲ認メナイトシテ本條約ニ違反シテ居ルモノデナイ、更ニ只今申述べタコトハ制度論デアリマスガ、尙ホ一ツ進ンデ考ヘテ見マス、問題ハ此保稅工場ヘノ特定貨物ノ移入ヲ禁止スルト云フコトト、保稅工場ノ新設及擴張ヲ休止スルト云フコトニ分レルト思ヒマスガ、此二點ニ分ケテ考ヘテ見

マス、先ヅ第一點ノ保稅工場ヘノ特定貨物ノ移入ヲ禁止スルト云フコトニ付テ考ヘテ見マス、例ヘバ保稅工場ニ外國ノ人絹ヲ入レルコトヲ禁ズルト云フコトニナルト致シマス、其人絹ノ生産國、即チ輸出國ニハ日本ノ輸入禁止又ハ制限ト云フヤウニ響クカモ知レマセヌ、從テ此點ハ國際關係上考慮スベキ事項ダト考ヘラレマスガ、併シ人絹ハ入レナイト云フノデハナイノデアリマシテ、關稅ヲ拂ヘバ幾ラデモ入レル、唯保稅工場ヘダケハ入レナイト云フニ過ギナイノデアリマス、且又或貨物ニ付テ一般ニ輸入ヲ禁止スルノデアリマシテ、特定ノ國、例ヘバ伊太利トカ、獨逸トカ云フ國カラ來タモノダケヲ禁ズルト云フノデハアリマセヌ、從テ條約文ニ讀ミテアル禁止トカ、制限トカ云フモノニハ當ラナイヤウニ思フノデアリマス、ソレカラ只今第三條、第四條ヲ御引用ニナッタノデアリマスガ、ハ變裝セル禁止ニナラナイカト云フ問題トナリマス、併シ此條文ハサウ云フコトニナラナイヤウニシロト云フコトヲ規定シテ居ルノデアリマス、即チ第三條ニ於テハ種々ノ手續ヲ課スル場合、ソレガ禁止ノ結果ヲ招來スルヤウニシナイデ置ケ、ト云フ趣旨デアリマス、先刻御讀ミニナリマシタヤウニ、締

約國カ自國ノ法令ニ從ヒ貨物ノ輸入又ハ輸出ヲ、輸入若ハ輸出ノ方法形式若ハ場所又ハ記號ノ押捺ニ關スル或規則又ハ他ノ手續若ハ條件ニ從ハシムル場合ニ於テハ締約國ハ之ヲ以テ變裝セル禁止又ハ專斷ナル制限ノ手段ヲラシメサルコトヲ約ス、斯ウ云フコトデアリマシテ、種々ノ手續ヲ課スル場合ニソレガ禁止ノ結果ヲ招來スルヤウニシナイデ置ケト云フコトデアリマス、併シ第四條ニ於テハ是モ只今御讀上ゲニナッタノデアリマスガ、左ノ種類ノ禁止及制限ハ該禁止及制限カ同一條件ノ下ニ在ル外國間ニ於ケル專斷ナル差別ノ手段又ハ國際貿易上ノ變裝セル制限ト成ルカ如キ方法ニ於テ適用セラレサル限り本條約ニ依リ禁止セララルコトナシ、ソレデ其次ニハツノ事項ヲ數ヘ上ゲテ居ルノデアリマス、此四條ニ於テハ禁止及制限ノ例外ヲ認メル、ハツ舉ゲデアリマシタモノハ構ハナイト云フノデアリマス、併シサウ云フヤウナ禁止制限ノ例外ヲ認メルガ如キ場合ニハ諸外國間ニ不衡平ナル結果ヲ生ズルヤウナ制限ナル結果ヲ避ケヨト云フコトヲ規定シテ居ルノデアリマス、即チ諸外國間ニ於テ不衡平ヲ來サナイヤウニスレバ宜イト云フコトニ外ナラナイノデアリマス、ソレダカラ條約ノ解釋ト

シマシテハ純然タル解釋論トシマシテ……關稅ヲ納付シサヘスレバ幾ラデモ這入、テ來ラレルノデアリマスカラシテ、輸入ノ禁止トカ、制限トカ云フコトニハナラナイト考ヘルノデアリマス、次ニ第二點即チ保稅工場ノ新設及擴張ノ中止ト云フコトデアリマスガ、此保稅工場ノ新設及擴張ヲ制限スルト云フコトハ輸入ト云フコトト間接ナル關係ニハアリマセウガ、直接ノ關係デハナイノデアリマス、本條約ニ規定シテアルコトハ直接ニ輸出入ニ關スル問題デアリマス、條約ノ趣旨ガ直接ニ輸出入ニ關スルコトデアルト致シマス、間接ニ關係ガア、テモ、ソレハ條約ノ違反問題ヲ惹起スルノデハナイト思フノデアリマス、新設ト云フコトハ特許デアリマス、擴張ト言ヘバ保稅工場法施行規則第十八條ニ依リマシテ、地區ノ面積若ハ建造物ノ増加ノコトデアリマス、之ヲ制限シタ所デ間接ニ輸入量ニハ影響ヲ及ボスカモ知レマセヌガ、輸入其モノハ何モ直接ノ關係ハ無イヤウニ思フノデアリマス、之ヲ要スルニ、此條約ハ輸入ノ制限禁止ニ關スルモノデアリマス、其輸入ノ制限禁止ニ關スル條約ニハ假令保稅工場ノ新設又ハ擴張ヲ制限シタ所デ違反シテ居ルモノデナイ、斯ウ云フノガ穩當ナ解釋ノヤ

ウニ考ヘルノデアリマス、併シ間接ニハ輸入ノ分量ニ關係スルト云フヤウナコトハ是ハ已ムヲ得ザル結果デアル、サウ云フコトガ此條約ノ根本ノ精神ニ違反スルカドウカ斯ウ云フコトニナリマス、ト云フト寧ろ解釋論タケデハイケナイノデハナイカ、事ノ宜シキヲ制スルト云フコトガ行政デアリマスレバ、餘リヒドイ結果ガ生ズルヤウナコトニナリマシテハ、是ハ大イニ慎重ナル態度ヲ以テ之ニ處シテ行カナケレバナラスト考ヘルノデアリマス、唯條約其モノニ反スルカドウカト云フ議論ニナリマス、ト、反スルト云フマデニハイカナイノデハナイカ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ル譯デアリマス、勿論此問題ハ假定論デアリマシテ、政府ガ保税工場ヲ新ニ許サナイ、又擴張モ許サナイ、サウ見タ上デ是ガ條約ニ果シテ合フデ居ルカドウカ、斯ウ云フ問題ヲ取扱フテ居ル譯デアリマス、其趣旨ニ於テ御答ヲシタ譯デアリマス

○委員長(男爵東郷安君) 引續キ申上ゲマス、只今ノ御答辯ハ主トシテ此條約ニ議テ

アル禁止及制限ニ付テ御説明ニナッタノデアリマシテ、其表面的ノ御解釋ト存ジマス、私ハ尙ホ此衆議院ノ希望決議ノ末段ニアル嚴重ナル取締ト云フコトニ重キヲ置イテ、

是ガ今後行政處分ノ如何ニ依ッテ相當色ミノ紛糾問題ヲ起シ、結局條約ニ議テアル條項ニ牴觸スル嫌ヒ無キヤ否ヤト云フコトヲ虞レルノデアリマス、是ハ餘リ詳シク論ジマスト意見ガマシクナリマスカラ、此程度ニ止メテ置キマス、最後ニ政府委員カラ御述ベニナリマシタ通り、結局ハ此種ノ取扱ハ實施ノ上ニ於テ行政的ニ極メテ善處シテ、一方保税倉庫ノ趣旨ヲ沒却セザルト同時ニ、又内地ニ今ヤ興隆セムトスル人絹工業ノ發達ヲ阻害セザル程度ニ於テ善處スル、斯ウ云フ意味ニ於テ了解イタシマシタ、チヨット速記ヲ止メテ……

〔速記中止〕

○委員長(男爵東郷安君) ソレデハ速記ヲ

始メテ……湯地幸平君ハ委員外デゴザイマスガ、御質問ナサリタイト云フコトデゴザイマスガ、諸君ニ於テ御異議ナケレバ……

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(男爵東郷安君) ソレデハドウ

ゾ……

○委員外議員(湯地幸平君) 私ハ矢張り人

絹ノコトニ付テ伺ヒタイデスガ、只今此條約ノ關係ハ政府委員ノ御答辯ノ通りト考ヘマシタガ、此保税工場ハ條約ニハ何等關係ナイノデアッテ、國ト國トノ輸出入ノ關係デ

ナク、保税工場ト云フモノハ國內デ拵ヘタモノデ、之ヲ廢シタカラト云フテ何モ條約ノ精神ニモ反シナイと思フ、全部廢シテモ少シモ之ニ議論ハゴザイマセヌ、是ハ私バカリノ議論デヤアリマセヌ、其方面ノ如何ナル大家ニ御聽キニナッテモ同論グラウト思ヒマス、私ハ今日保税工場ノ存在ト云フコトハ中以下ノ工業ニ大打撃ヲ與ヘテ居ルト思ヒマス、御承知ノ如ク近頃ハ世界各國ニ於テ人絹ガ隨分澤山出來テ參リマシテ、生産過剩ニナッテ居ル、サウシテ其中デモ一番過剩ナノハ伊太利デアリマスガ、ソコデ之ヲ捌クガ爲ニ「ダンピング」ヲヤッテ、伊太利デ百二十五圓バカリノモノガ七十圓デ横濱ニ這入ッテ來テ居リマス、殆ド捨賣、投資ノヤウナ態度デ日本ニ這入ッテ居リマス、其安イ物ガ無稅デ保税工場ヘ這入ッテ來ル、保税工場ハサッキ次官ノ御答辯ニハ六箇ト申サレマシタガ、私ノ調べタノハ九個デアリマス、此保税工場ト云フノハ機ノ數ガ九十カ百位ノ大キナ機數ヲ持ッタ者ノ少數ニ許シテ居ル、一方ニ於テハ、日本ニハ人絹會社ガ出來テ、サウシテ生産モ相當殖エテ居リマス、輸出入ノ關係ヲ見テ見ルト人絹ハ日本ハ四番目ニナッテ居リマス、元來保税工場ヲ造ッタ時ノ趣意ヲ見マス、原料ガ日本ニ

無イモノカ、若クハ日本ノ原料ガ非常ニ高イ、或ハ少イト云フモノヲ日本ニ無稅デ入レマシテ、ソレノ加工費ダケヲ日本デ掛ケテ、サウシテソレヲ外國ニ賣、テ利益ヲ得ル、詰リ加工品ヲ外國ニ出ス、ソレガ日本ニモ外國ニモ原料ガアッテ、日本ニアルケレドモ非常ニ日本ノ高イト云フ場合ニ於テ保税工場ニ入レルト云フコトガ當時保税工場ノ法律ガ出來タ時ノ精神デ、サウ云フ風ニ説明ガ付イテ居リマス、所ガ今日ハ、我國ノ人絹會社ト云フモノハ相當ノ生産ヲシテ居リ、海外輸出デハ四番目デアル、サウシテ各國ト値ヲ比ベテ見マス、日本ガ一番安イ、ドウシテモ保税工場法ト云フモノヲ少クトモ人絹ニ關シテハ存在スル必要ハ無イノデアリマス、是ハ將來廢止サレベキモノデアルト云フコトヲ確ク信ジテ居リマス、何故ナラバ六軒ナリ九軒ナリノ大工業家ガ非常ナ利得ヲ占メマシテ、日本ノ人絹會社ガ拵ヘタ原料ヲ中以下ノ機數ノ少イモノガ何千何百トアリマスガ、其處ハ皆日本デ出來タ人絹ハ賣ラス、サウシテ之ヲ外國ニ出ス、日本デ出來タノハ六割デ賣ッテ居リマス、外國ニ賣リマス時ニハドウスルカト云フト、伊太利トカ其他ノ「ダンピング」デ日本ノ保税工場ニ這入ッタモノヲ安ク海外

ニ賣リマス、一般外國トノ取引ハ保税工場ニ這入ッタ物ヲ先ニ取引イタシテ、ソレヲ値段ノ標準ニスル、其結果大多數ノ中以下ノ機屋アタリハ非常ナ迷惑ヲ蒙ッテ居ル、僅カ六軒ヤ九軒ノ爲ニ、是ハ實地ニ御調査ニナレバ分ルコトと思ヒマスガ、此位不條理ナコトハドウモナイト思ヒマス、私ハ斯ウ云フコトハ不案内デアリマスガ、色ミナコトヲ聞キマシテ、又自分モ相當調べマシタ所ガ實ニ憤慨イタシタノデアリマス、斯ウ云フモノハ、是ハ將來ハ私ハ日本ニ存置スベキモノデナイト信ジマス、今日中以下ノ商業ガ非常ニ困ッテ居ルノニ、僅カ六軒カ九軒ノ者ガ大暴利ヲ貪ッテ、他ニ大ナル影響ヲ及ボスト云フヤウナモノハ廢スベキデアルト云フコトヲ確ク信ジテ居リマス、ソレニ付テ第一將來保税工場ニ付テノ政府ノ御考ハドウデアルカ、第二ニ私ガ承ハリタイト思フノハ、各國ヲ見マスト、其過剩シタ生産ヲ外國ニ捌クガ爲ニ、或ハ運賃ヲ減シ、其他非常ナ便利ヲ與ヘテ居リマス、サウシテ是ハモウ本當ノ戰爭ノヤウナモノデス、日本ノ方ガ關稅ヲ引下ゲラレト云フ事柄ハドウモ是等ノ各國ノ人絹ノ經濟戰ニ對シテ、是ハ其政策ハ誤ッテ居リハシナイカ知ラヌト云フヤウナ疑ヲ持ッテ居リマス、ソレデ

我國ノ會社デ出來タ其人絹ヲ加工シテ出ス所ハ南洋カラ東洋ニ出シマスガ、段々ト販路ガ今擴張シツツアルノデアリマス、是ハ競争デアリマスカラ、少シ日本ノ人絹ニ政府ガ便宜ヲ與ヘラレバ、外國カラ南洋方面、東洋方面ニ來テ居ル所ノ外國ノ人絹ト云フモノハ驅逐ガ出來ル、驅逐シマスト、是ハ日本デハ失業救済ニ重大ナ關係ヲ持ッテ居リマス、ソレデ此失業救済ト是トノ關係ニ付テ私大分調査シテ見マシタガ、ソレニ依リマスルト、今日ノ人絹會社ガアッテ、之ニ使ハレテ居ル直接間接ノ職工其他ノ關係者ヲ見マスト約五万人デアリマス、ソレカラ若シ假リニ此人絹ト云フモノヲ日本ガ保護シテ、モウ少シ販路ヲ擴張シ、假リニ千五百万圓ダケ……今デハ三千五百万圓デアリマスガ、之ヲ五千万圓ニ擴張スルト云フト、約二万五千人ノ失業者救済ニナル、是ハ總テ細カイ數字ガ出テ居リマスガ、ソレデサウ云フ時ニドウモ關稅ヲ引下ゲテ外國ノ人絹ガ日本ニドシム、這入ッテ來ルト云フヤウナ政策ハ、是ハ果シテ適當ノ政策デアルカ、此點ヲ私ハ非常ニ疑ッテ居リマス、外ノ綿絲ノヤウナモノハ、例ヘバ百圓ノ輸出ヲ致シマシテモ其中ノ八割位ハ外國ニ取ラレテシマフ、原料ガ皆外國カラ來マ

スカラ……、サウシテ日本ニ殘ルノハ二割カ一割位ノモノデアル、人絹ノヤウナモノハ百圓ノ輸出ヲシマスレバ九割ハ日本ニ來ル、其中ノ「バルブ」ノ代リトカ或ハ藥品ノ一部ヲ外國ニ拂フノデアッテ、原料ガ皆日本デ出來マスカラシテ、此人絹ノ輸出ト云フモノハ外ノ綿絲等ニ比ベテ見ルト非常ニ日本ノ利益ニナル、斯ウ云フ事業ハ、政府ハ今日失業救済ノ聲ノヤカマシイ時ニ、斯ウ云フコトニドウシテ著目サレナイカ、私ハ本年ノ議會ノ初メニ於テモ質問イタシマシタガ、政府ノ失業救済ノ當ヲ得ナイト云フノハ、サウ金ヲ掛ケズシテ、斯ウ云フ外國貿易ノ關係ヲ滑ラカニシテ、日本輸出品ヲ出スト云フコトデ失業救済ガ出來ルニモ拘ラズ、其方面ニ手ガ伸ビテ居ラナイ、其コトヲ私ハ昨年モ本年モ痛論イタシマシタ、ソレデ外國貿易ト日本ノ關係ニ於テドンナ仕事ガ日本ノ失業救済ニナルカト云フコトヲ調べタモノガ澤山アリマスガ、其中デ一番直接ニ失業救済ニナッテ金ガ日本ニ澤山這入ルモノハ人絹デアリマス、斯ウ云フ點ニ政府ノ注意ガ甚ダ足りナイヤウニ思フ、ソレニ付テ私ハ關稅ノ引下ニ付テ、直チニ私ハ此處デ贊成ヲスルカドウカ知りマセヌ、此問題ニ付テハ……併ナガラ其關稅ノ

引下ガ外國カラ日本ニ襲來スル所ノ品物ヲ防ギ得ル程度ナラバ已ムヲ得マセヌガ、近頃ノ此外國カラ日本ニ來ル電報ヲ見マスルト云フト……歐米各國カラ來マシタ電報ヤ新聞ニモ「歐洲ノ人絹「カルテル」ノ内容」、是等ハ一致シテサウシテ人絹ヲ日本ノ方ニ出シテ行カウ、或ハ「本邦人絹ハ孤立」、ソレハ「歐米ヲツラネマス協定實現ノ曉ハ本邦人絹ダケガ重圍ノ中ニ孤立ノ姿トナリ、現今ノ伊太利品ノ「ダンピング」ニモ増シテ斯業ノ根柢ヲ脅カスコトニナルデアラウ」、是ハ皆外國カラノ報告デアリマスガ、サウ云フヤウニ、大藏省デモ御承知デセウガ、多クアリマス、外國ガ協定ヲシテサウシテ南洋及日本ヲ脅カサウ、人絹デ……、是ハ報告ガ來テ居ルダラウト思ヒマス、是ハ商務官ヤナンカノ報告デスカラ、サウ云フ時ニ向ッテ關稅ノ引下ヲシテ、外國ノ輸入ニ便ナラシメル如キ政策ハ私ハ甚ダ其了解ニ苦シムノデス、私ハ人絹會社ニ何等關係ガアリマセヌ、人絹會社ガ盛ンニナラウト衰ヘヨウト、私個人トシテハチットモ痛痒ヲ感ジマセヌガ、ドウモ日本ノ外國貿易ノ關係、サウ云フ點ニ御注意ニナッテ此失業救済ヲスルト云フコトニ、ドウシテ御氣付ニナラナイカ、其點ニ付テ御答辯ヲ願ヒタイ

○政府委員(小川郷太郎君) 只今湯地サン

ノ御意見ニ付キマシテハ私等ハ別ニ反對シテ居ルノデモ何デモアリマセヌ、詰リ考ハ同ジヤウナ所ニ歸スルノデハナイカト思ヒマス、尙ホ簡單ニ答辯イタシマスレバ……其前ニチヨット御斷リシテ置キマス、此保稅工場ノ數ヲ私ガ六ツト申上ゲマシタコトニ付テ、九ツト云フ御話ガアリマシタガ、其九ツノ中ノ三ツハ染織工場ノコトヲ含メテノ御話ダト思ヒマス、染織工場ハ只今人絹ヲ織物ニシテ、ソレヲ染メルダケノ話デアリマスガ、今私ノ申シテ居リマスノハ、人絹織物ニ關スル工場ダト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、同ジヤウナ組織ノ會社ガ、同ジ資本家ガ片方ニ織物ヲヤリ、片方ニ染物工場ヲ持ッテ居リマスカラ、ソコハダブッテ居ルトモ考ヘラレルノデアリマス、次ニ保稅工場ヲ新ニ許ストカ、擴張スルトカ云フコトハイカナイデヤナイカト云フヤウナ御趣旨ノ御質問デアリマス、今申上ゲタヤウニ此六ツシカ許シテ居リマセヌト云フノハ、貴方ノ御話ニナッタヤウナ趣旨モ政府モ考ヘル所ガアリマシテ、願出ニ依ッテソレヲ許シマシタナラバモット非常ナ數ニナッテ居ルダラウト思フノデス、現在ニ於キマシテモ非常ニ慎重ナ態度ヲ執ッテ居リマスカラ、

今ノヤウナ數ニ止マッテ居リマスガ、今後ニ

於キマシテモ、再三申上ゲマシタヤウニ、人絹製造業、人絹織物業、兩方ノ利益ト云フコトモ能ク考ヘテ是ニ善處シナケレバナラスト思ヒマスカラ、慎重ナ態度ヲ以テ之ニ應ゼヨト云フコトヲ申シテ居ルノデアリマス、此趣旨ハ決シテ湯地サンノ御話ト矛盾シテ居ナイト考ヘテ居リマス、ソレカラ最後ニ關稅引下ニ付キマシテ保護ノ精神ヲ全ウシナイデヤナイカト云フヤウナ御質問デアリマシタガ、政府ハサウ考ヘテ居リマセヌ、既ニ説明ヲ致シマシタ通りニ、今日ノ此輸入平均價格カラ申シマスレバ、今日ノ關稅率ハ八割五分ニナッテ居リマス、之ヲ制定イタシマシタ時分ニハ二割七分位ノモノデアッタノデアリマス、ソレデアリマスカラ四割方引下ゲマシテ、現行率ノ六割ニ當ル所デ稅率ヲ盛リマシテモ、保護ノ目的ハ十分ニ達セラレテ居リマシテ、是ガ爲ニ人絹業ガブチコハサレルト云フコトハナイト、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス、其點ニ於キマシテ引下ゲテモ差支ナイト考ヘテ其度合ヲ此程度ニ止メタノデアリマス、尙ホ失業救済ニナルデヤナイカト云フヤウナ御話デアリマスガ、御尤デアリマス、政府ノ考ヘル所ハ人絹業ト人絹織物業ト兩立サン

テ健全ナル發達ヲ遂ゲシメヤウト云フノデ

此關稅定率法ノ改正ヲ試ミテ居ルノデアリマスカラ、兩方トモ完全ニ發達スレバ湯地サンノ御話ノ失業救済ニナルノデハナイカト考ヘテ居ルノデアリマス

○湯地幸平君 明瞭ニ解リマシタ

○委員長(男爵東郷安君) チヨット速記ヲ止メテ下サイ

〔速記中止〕

○委員長(男爵東郷安君) ソレデハ速記ヲ始メテ、ソレデハ本日ノ午後ノ各委員會ノ都合ヲ見計ヒマシテ、都合ニ依リマシテハ再會スルカモ知レマセヌ、左様御承知ヲ願ヒマス

午後零時四十一分休憩

〔其ノ後開會ニ至ラス〕

出席者左ノ如シ

委員長 男爵東郷 安君

副委員長 子爵綾小路 護君

委員

候爵西郷 從德君

室田 義文君

西野 元君

根津嘉一郎君

高廣 次平君

政府委員

大藏政務次官 小川郷太郎君

商工省貿易局長 立石 信郎君

昭和六年四月五日印刷

昭和六年四月六日發行

貴族院事務局

印刷者 內閣印刷局